

## 第11回「ハンガリー旅の思い出」2014年コンテスト作品

木下成一、朋子さんの作品

### 中欧(ハンガリー、スロバキア、チェコ、オーストリア)旅行記

最近では毎年海外旅行を楽しみにしている。次の旅行先を考え始めた矢先、日本旅行のパンフレットに、プラハの春国際音楽祭の2日目鑑賞(スメタナの{わが祖国}全曲をチェコフィルが演奏)が組み込まれたコースがあった。ウィーン～ブダペスト～ブラチスラバ途中下車観光～チェスキークルムロフ～ザルツブルグ～ウィーンの中欧10日間のコースだ。

{わが祖国}をチェコフィルの演奏でスメタナホールで聴けるチャンスはまたとないと思い、昨年11月に申し込んだ。その時点で概に5名の申し込みがあった。

私達は5月のヨーロッパ旅行は初めてで気候が心配であった。現実にくずついた天気が続き、気温も上がらず悩まされたが、プラハでの{わが祖国}の演奏会は期待通りの感動を得たし、ウィーンの学友協会でのモーツァルトコンサートも良かった。楽しい旅行であった。

旅の感動、感想を旅程とともに綴り、後日思い起こしての楽しみにしたい。

#### 「事前対応」

旅行先は朋子は2度目、私はオーストリア以外は初めてなので、東京在のハンガリー政府観光局、チェコセンター観光部に観光資料、地図を請求し、市販のガイドブックとは違う視点での情報を勉強をした。また、気候の情報を友人などからも得て対応した。

#### [旅程に沿って]

##### 1日目(5月10日(土))

- 成田国際空港からオーストリア航空OS0052便11:20発でウィーンに向けて出発する。ツアーの集合場所は成田国際空港第1旅客ターミナル4階出発ロビー南ウイング、Kカウンター23番に9:20。これに合わせて行動する。
- 爽やかな朝、気持ちよく自宅を出る。スーツケースは事前に空港に託送しておいたので荷物は機内持ち込みのものだけ。身軽だ。
- 港南台6:176:24大船着。大船6:38(NEX9号)8:37成田空港着。車内でおにぎり朝食。今朝はスカイツリーが良く見えた。
- 空港ではまず両替。2日前のTC波多江さんの電話アドバイスを参考にハンガリー・フォリントを3,000円分(5,000フォリント、0.54円FT)、チェコ・コルナを1万円分(1,700コルナ、5.88円Kc)購入。両国とも大きなショップではユーロが使えるそうなので少なめにした。ユーロは前回までの残金手持ち分のほか事前に横浜銀行で購入しておいた(145.88円ユーロ)。

QLカウンター(Kカウンターの横)で託送しておいたスーツケースを受け取り8:50にKカウンターでTCの波多江さんに面通し。塔乗券を貰い、諸注意事項を受ける。手際よく、テキパキ整理する人だ。D-カウンターでオーストリア航空OS0052便にスーツケースを預け、塔乗手続きはスムーズに済んだ。

9:20にはIASSEXECUTIVELOUNGE1でビールを飲み旅の前祝。寛ぐ。

10:00-10:10でセキュリティーチェックと出国審査。スムーズに終了。出国者が少ないのか、簡素化されたのか、早く済む。嬉しいことだ。

10:40 41ゲートから塔乗開始。機材はB777-200、座席は29HとJ。窓際のK席は空席で助かる。3席を2人で使う。満席ではない、80%位の搭乗率か。乗客は大多数が日本人。客室乗務員の制服は、女性は真っ赤なスーツ、明るくて感じが良い。日本人は4人いた。11:10にオフゲート。11:32に離陸。「愈々飛び立った」という感慨。

機内のオーディオサービスは充実している。私はクラシック番組を選択した。白ワイン、ビールを飲みながら、モーツァルト、メンデルスゾーン、ブラームスなどに聴き入った。また、飛行マップも時折見た。どういうルートを飛び、今どのあたりを飛んでいるかと思うとわくわくしてくる。ロシア北部(北極圏ではなさそうだが)を飛んでいるとき窓外を見ると大地は真っ白。相当雪が残っている(モニター画面で見ると

SURGUTOの南西)。5月上～中旬のロシアはまだ相当寒そうだ(復路も同じような眺めだった)。

往路は長い。昼間の11時間半のフライトだから退屈する復路は夜にかかるからまだよい)。現地時間の15:35に機内アナウンス。16:05到着予定でウィーンの気温は21℃だと。安心する。窓外を見るがこの時期のヨーロッパの大地はカラフルではない。緑は多いが、土色をしたところが多い。これから種蒔きするか、蒔いたばかりなのだろう。夏のパッチワークを施したような美しさは感じなかった。

風力発電用の風車が多い。

予定通り16:05に着陸。ウィーン空港はそれほど大きくない。6:10にはオン・ゲート。初夏を思わせる好天だった。入国審査はスムーズ。出たところで今回のツアー参加者19人がTCの元集まる。新婚カップルから私達より年配と思しき人達の層で、幅広い。16:50にはスーツケースをピックアップ(ポーター付)し、税関はノーチェック。17:00にはブダペストへ向けてバスに乗る。ベンツ社製のロングディスタンスコーチでハンガリーナンバーの車。実はこのバスで5月16日のウィーン到着までの周遊全行程を回った。運転手は温厚で穏やかな人(ブダペストからは2人制)、座席もゆったり。安心して乗っておられた。楽しい旅行の一因だった。

ブダペストまで222kmの表示。高速道路がネットワークされており、しかも、シェンゲン協定締結国間の入境・出境の手続きが省略されているので、TCからハンガリー一国に入りましたと説明を受けるまで、国境通過はわからない。人々の往来、物流にとっては大変便利だろう。

オーストリア東部は平坦で農業地帯。ハンガリーに入っても同じで、田園が広がっている。ブダペストの手前まで単調な景観が続く。民家は点在する程度で広い耕作地の管理が大変だろうと感じた。ハンガリーは農業国だと実感。土色の部分には、これからひまわりを植え、8月頃満開になるそうだ。

ブダペストは大きな町だ。広告看板が多い。反対車線は大渋滞(退勤時間だろう)。ブダ側丘陵からエリザベート橋を渡り、ドナウ川の左岸にあるペスト側のホテルに20:00に到着。アトリウムが高く、ロビーが感じの良いホテル。部屋は清潔で設備も良い。これからの観光の期待が高まる。

今夜は食事が付いていない。日本から持参のものや、途中の休憩所で買い求めたもので簡単に夕食とし、早速、ホテル近辺を散策。「くさり橋」をペスト側からブダ側へ往復。両端と川中の2個の橋脚は堅固で、荘重な門構え。その間をくさり(ロープ)で繋いである。「くさり橋」をはじめ、ブダ側、ペスト側の主な建物はライトアップされており、幻想的な景観だ。「ブダペストはドナウの真珠」と言われているそうだが正に実感。

(泊)ブダペスト[ソフィテルブダペストチェーンブリッジ]

2日目(5月11日(日))

5時起床。時差ぼけだろう、身体がだるい。6:50から朝食。他のヨーロッパの国と同じbuffestail。メニューも豊富で美味だった。特に生パプリカ、鱈のマリネ、オムレツが美味。パプリカは赤、黄、緑の3色あった、特産なのだろう。食後外に出たら、雨になっていた。今日は終日降ったりやんだりだった。

モニカさんのガイドで終日ブダペスト市内観光。彼女はボーイッシュスタイルで、流暢に日本語を話す。聞き取りやすい。

エリザベート橋を渡りブダ地区へ。途中、エリザベート橋から見上げる小高い丘に建つ聖ゲッレルートの自由の女神像は印象的(ライトアップされた姿はさらに良かった)。「ゼロキロ広場」(ハンガリーの道路の基点)から、古い石造りの建物、石畳が続く坂を上り王宮へ。現在王宮は大統領官邸として使用されているようだ。門の両側に建つ衛兵が凜々しい。丘の上からの市街の眺望は美しい。特にペスト側は見渡す限り平坦だが、国会議事堂、聖イシュトバーン大聖堂は威厳に満ちていて、ひととき目立つ。王宮の隣に新王宮が建つ。13世紀に建てられたがオスマントルコ軍に破壊された。オスマントルコ軍をシャボイ将軍が打ち破り、改めて18世紀後半に建てなおされた。現在は博物館などに使用されている。

ブダペストは人口200万人、周辺を含めると300万人になるそうだ。ハンガリーの人口は1,000万人だから、約30%がブダペスト及び周辺に集中している。

ブダペストの成り立ちは、ブダ(丘の意、古い場所、高級住宅地)とオダ(スラブ語で水の意)が一緒になり、更にペスト(スラブ語でかまど、温泉の意。賑わい、商業地区)と合併してできた町。「ドナウ川」の呼び方はドイツ語(源流はドイツの黒い森地方)、英語で[ダニューブ]、ハンガリー語で「ドナ」。

再びエリザベート橋を通りペスト側へ。19世紀後半の石造りの4～5階建ての建物が多い。ブダペスト東駅は1884年建造の立派な駅舎で、ドイツ、オーストリアへの国際線の発着駅。この辺りではトロリーバスが走っている。

市民広場の傍にセイチェニー温泉がある。ブダペストのど真ん中にある。

英雄広場には建国1000年記念として建設されたガブリエル大天使塔がある。これを半囲みするように、建国当時の7人の族長の騎馬像がある。この中の、ハンガリーのカルパチア地方の族長であったアルパードがマジャール国を作り、アルパードの子孫のイシュトバーンが7部族を統一し、キリスト教を受け入れて896年にハンガリー国が誕生したそうだ。大天使ガブリエル像の右手にはイシュトバーンが授けられた王冠を、左手には「二枝十字架」を持つ(二枝十字架一王様でもあり、キリスト教の伝道者でもあるということらしい)。アンドラーシ通りを通り(一部交通事故で迂回)、聖イシュトバーン大聖堂通りのレストランで昼食。トカイ地方の貴腐ワインが美味しかった。



新王宮前広場でお祭り屋台



聖イシュトヴァーン大聖堂通り

聖イシュトヴァーン大聖堂の柱は太い。ハンガリーの赤大理石で作られていて煌びやか、威厳がある。イシュトヴァーンが聖母マリアに王冠を捧げている絵がある。これは、イシュトヴァーンの一人息子が狩りで死亡し、子孫が絶えたので、ハンガリーを聖母マリアに差し上げたとする絵だそう。聖母マリアは国民に愛されている。ハンガリーでは聖母マリアがどこにでも祀られているそう。

大聖堂の礼拝堂にはイシュトヴァーンの右手が祀られてあった。

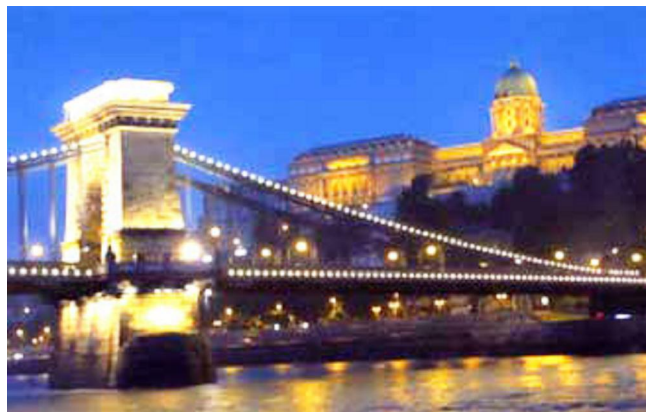
再びエリザベート橋を渡りブダ側へ。漁夫の砦の下から階段を上って広場へ。聖イシュトヴァーンの騎馬像がある。かつて、漁師組合がこの砦を守っていたことから、漁夫の砦と名が付いたそう。この砦からの眺望は絶景だった。ドナウ川にできた中州のマルグッド島もよく見える。

オスマントルコ軍が入城する前のハンガリーが繁栄していたころのマーチャーシュ王を祀ってあるマーチャーシュ教会は、ジオルナイ焼きのタイル屋根が綺麗だ。今は、音響効果が良いので、よくコンサートが開かれているそう。オスマントルコ軍が入ってきてイスラム教会になったが、17世紀にまたカトリック教会になった。どこかオリエント風の雰囲気だ。広場には三位一体の像(父と子と聖霊)がある。ペスト病が終焉したとき再び流行らないように願って建設されたそう。ヨーロッパの多くの都市でみることができる。

フリータイム時に街中へでかけた。地元の「CBA」というスーパーで買い物をしたが、ユーロが使えた。街の土産物店で日本語が話せる店員がいた。ホテルにもいたね。

ホテルから5分。ドナウ川に浮かぶ船上レストランで夕食。ドナウ川は国際クルーズ船が行き交い、ナイトクルーズ船も多い。私達も食後1時間ほどナイトクルーズを楽しんだ。ライトアップされたくさり橋、国会議事堂、聖イシュトヴァーン大聖堂、新・旧王宮、漁夫の砦、ゲッレルルトの丘の自由の女神像など大変綺麗だった。青天だったら如何ばかりの景観であつたらうか。

(泊)ブダペスト「ソフィテルブダペストチェーンブリッジ」



くさり橋と王宮

3日目(5月12日(月))

5時ごろ目を覚ます。朝、風が強い。天候の回復を願う。

8:00ホテル発でスロバキアのブラチスラバ経由でチェコのプラハに行く。今日は長旅だ。ブダペストの朝模様は、仕事に向かう人の歩行喫煙者が結構いる。ジャンパーを着ている人、コートを着ている人も多い。寒い朝になった。

以下、続きますが割愛させていただきました。ハンガリー政府観光局

